

## ひょうご五国のやきもの **ワンポイント** 解説

兵庫県の旧五国では、それぞれを代表するやきものが生産され、その技や作品の一部は現在まで受け継がれています。このコーナーでは、兵庫県立歴史博物館のコレクションの中から、兵庫県各地のやきものを紹介します。

### **摂津** さんだやき **三田焼** せいじふながたひつせん **青磁舟形筆洗【三田市】**

三田焼の特徴はズバリふたつ。ひとつは青磁〔あおみどり色の磁器〕の作品が多いこと。そして粘土を型（かた）で押して成形する作品が多いことです。

京都伏見の人形師の家に生まれ、のちに京都で陶磁器づくりを学んだ陶工・欽古堂亀祐（きんこどうきすけ）らが指導した三田焼は、型押し成形された青磁の名品を数多く後世に残しました。



### **播磨** とうざんやき **東山焼** そめつけりゆうもんはないけ **染付龍文花生【姫路市】**

今からちょうど 200 年前の文政 5 年(1822)、東山焼は姫路の海沿いの地域で焼き始められましたが、のちに姫路城のすぐ近くに窯（かま）を移します。その頃、京都の著名な陶工などが姫路に招かれ、美術的色彩の高い作品を生み出すようになりましたが、明治時代を目前に控えた安政年間、姫路藩が経営から退き、東山焼は衰退していきました。



### **丹波** たんばやき **丹波焼** つぼ **壺【丹波篠山市】**

丹波篠山市の立杭（たちくい）の地域を中心に、平安時代終わり頃から現在まで、やきものづくりが受け継がれています。もともとは釉薬（うわぐすり）を使わない焼き締め（やきしめ）陶器を焼いていましたが、江戸時代になると様々な釉薬や化粧土による装飾を行うとともに形態も多様化し、現在も伝統を活かした多彩なやきもの作りが行われています。



### **淡路** みんぺいやき **珉平焼** あかええびもんちやわん **赤絵海老文茶碗【南あわじ市】**

**エビ**のひげが、茶碗の中にまで延びていることが見どころです！！

珉平焼は、文政年間(1818～1829)、今の南あわじ市において、賀集珉平（かしゅうみんぺい）が創業したと言われていています。京焼の名工である尾形周平の指導を受けたとされ、高い技術力で多種多様なやきものを生産しました。



### **但馬** いずしやき **出石焼** そめつけからじしもんつくり **染付唐獅子文徳利【豊岡市】**

出石焼といえば、現在は細かい細工を施した白い磁器・白磁がよく知られていますが、江戸時代の出石焼は、白地に青色の絵付けを行った染付（そめつけ）の日用品が製品の主力でした。明治期に入り海外へも販路を広げる際に、装飾をこらした磁器が生み出されました。

この徳利は明治期の作品で、大ぶりの徳利に描かれた獅子の、愛嬌のある表情が見どころです。

